資料１

次期福岡県農林水産振興基本計画の素案について

1 目指す方向

担い手の減少が避けられない中、将来にわたり、県民の食と豊かな暮らしを守っていくため、若い世代が夢と希望を持って挑戦できる「儲かる農林水産業」の実現を目指す。

2 基本的な政策・施策

大項目	中項目	小項目
1 農林水産業の構造転換で生産力と収益力を強化	(1) 経営基盤の再編・規模拡大を進め、効率的な生産構造を確立	① 地域計画のブラッシュアップと着実な実行により、農地の集積・集約化、大区画化を推進
		② 森林経営管理制度の活用や現地調査のデジタル化等により、森林の集積・集約化を推進
		③ 高性能漁船や大型ノリ乾燥施設の導入等により、ノリ養殖経営体の規模拡大を推進
		④ カントリーエレベーターや選果場等の共同利用施設の再編集約・合理化を推進
	(2) 先端技術の活用やDXの推進により、収益性の高い生産を実現	①「園芸ADTECセンター」をはじめとする研究拠点を核に、新技術や新品種の開発を加速
		② 生産性と環境負荷低減を両立する「未来型園芸農業」の実現に向け、産学官の連携を強化
		③ AI・ロボット技術等を活用したスマート機械や先進的な施設の導入により、高品質・高収量・省力化を推進
		④ デジタルデータを活用した生産・資源管理や漁船の操業を推進
	(3) 消費者ニーズや環境変化に対応した生産体制を構築	① 国内外の消費動向を踏まえ、需要に応じた生産体制を強化
		② 優良種苗の計画的かつ安定的な供給を推進
		③ 夏期の高温に対応した優良品種・家畜や先進的な機械、生産技術等の導入を推進
		④ 生産資材の価格高騰や供給不足に対応できる代替技術の導入や経営指導等を強化
		⑤ 農地や農業水利施設、林道、漁港等の計画的な整備により、生産基盤を強化
	(4) 地域の特性を活かした稼ぐ力と農山漁村の賑わいを創出	① 地域資源を活かした複合経営等を推進し、中山間地域の稼ぐ力を強化
		② 里業・森業・海業を推進し、新たな収益機会を創出
		③ 農山漁村の魅力発信や都市部との交流促進により、関係人口を拡大
	(5) 森林資源の循環利用を推進し、県産木材の供給力を強化	① 森林施業の省力化・低コスト化を進め、計画的な主伐と確実な再造林を推進
		② 少花粉苗木の生産・供給体制を強化し、花粉発生源対策を推進
		③ 実需者が求める品質・性能を備えた製材品の供給力を強化
	(6) 水産資源の適切な管理と豊かな漁場づくりを推進	① 魚礁の設置や覆砂による底質改善等により、漁場の生産力を強化
		② 水産資源の持続的な利用に向け、資源管理や栽培漁業を推進
		③ 漁場環境の変化に対応した養殖方法の導入により、安定生産を推進
2 次代を担う多様な「人財」を確保・育成	(1) 地域との共生を図りながら多様な担い手を確保	① 就業準備から経営の改善・発展まで一貫した支援を強化
		② 地域計画の実現に向け、担い手の確保を農地の集積と一体的に推進
		③ 担い手の確保が困難な地域において、地域外の大規模経営体や企業の参入を促進
		④ 中山間地域を中心に、農業支援サービス事業体等との連携による生産体制を強化
	(2) 先導的な農林漁業者の育成と経営力の強化を推進	① 企業マインドを持って経営規模の拡大と生産性の向上に取り組む「企業型経営体」を育成
		② 農林水産業におけるDX実装に対応したデジタル人材を育成
		③ 女性農林漁業者の能力発揮と経営参画を推進
		④ 集落営農法人の経営力強化に向け、人材確保や広域化等を推進
		⑤ 農林漁業団体と連携し、農林漁業者への技術・経営指導を強化
	(3) 教育機関等と連携し、将来の担い手を育成	① 農業大学校や農業高校、水産高校等と連携を強化し、将来の担い手を育成
		② 農業大学校やトレーニングファーム等の研修機能を強化し、即戦力となる担い手を育成
		③ 雇用就業者のスムーズな就業・定着に向け、就業前後のフォローアップを強化
	(4) 誰もが活躍できる環境づくりを推進	① 安心して働ける就業環境の整備や安全対策を推進
		② 障がいのある方の活躍と農業の新たな働き手の確保に向け、農福連携を推進
		③ 法人経営等における外国人材の活用を推進

大項目	中項目	小項目
3 戦略的なマーケティングで販売・消費を拡大	(1) 「食の王国・福岡」の認知度向上とブランド戦略により、販売を促進	① 新たな販売先の開拓に加え、県産農林水産物と加工品の一体的な売り込みを強化
		② 有名シェフや有名店と連携した「福岡フェア」等の開催により、県産農林水産物等の認知度を向上
		③ 県産農林水産物の魅力発信や県育成品種の保護等により、ブランド化を推進
		④ 実需者・消費者のニーズを生産者にフィードバックし、付加価値の高い商品づくりを推進
	(2) 国際情勢の変化や海外需要を捉えた輸出を拡大	① 輸出先国・地域の規制やニーズに対応した輸出産地づくりを推進
		② 海外でのフェア開催や産地招へい等により、県産農林水産物等の認知度を向上
		③ 市場調査や試験輸出等により、新たな輸出先を開拓
		④ 九州各県等との連携を通じ、県産農林水産物の効果的なPRや販促活動を強化
	(3) 生産者と消費者をつなぐ流通体制の構築と消費拡大を推進	① モーダルシフトやパレット標準化による共同輸送等を推進し、物流を効率化
		② 大規模な大会・イベント等でのPRや販売を通じ、県産農林水産物の消費を拡大
		③ 観光との連携やGIの活用により、インバウンドを含む観光客の飲食需要の取り込みを強化
		④ 生産コストを踏まえた適正価格に対する消費者や事業者の理解醸成を促進
	(4) 木材の新たな需要創出により、県産木材の利用を拡大	① 木材利用への理解醸成と情報発信を通じ、非住宅建築物の木造・木質化等を推進
		② 公共・民間建築物等における県産木材の利用を拡大
		③ 建築人材の育成と認知度向上に向けた情報発信等を通じ、CLTの利用を拡大
4 災害に強く、環境と調和のとれた農林水産業を推進	(1) 農山漁村が有する多面的機能を維持・発揮	① 地域内外の多様な主体と連携した共同活動により、農地や水路等の保全・管理を強化
		② 間伐等の森林整備による健全な森林(もり)づくりを推進し、公益的機能を持続的に発揮
		③ ブルーカーボン創出につながる藻場の再生や海域の栄養塩類管理等により、漁場環境を保全
	(2) 激甚化・頻発化する災害に備え、防災・減災対策を強化	① 農林水産施設の長寿命化や計画的な整備により、防災・減災機能を維持・強化
		② クリークの先行排水をはじめとする流域治水の取組により、湛水被害のリスクを低減
		③ 森林の荒廃を未然に防止し、災害に強い森林(もり)づくりを推進
		④ 自然災害による経営リスクに備え、収入保険制度等への加入を促進
		⑤ 被災した農林水産施設の早期復旧により、農林漁業者の経営継続を支援
	(3) 捕獲・侵入防止・獣肉活用で鳥獣被害対策を一体的に推進	① 狩猟者の確保・育成を推進し、有害鳥獣の捕獲体制を強化
		② 防止柵や緩衝地帯の整備など、地域の実情に合わせた侵入防止を徹底
		③「ふくおかジビエ」の魅力発信や実需者とのマッチング等により、獣肉の有効活用を促進
	(4) 県民の「食」を支える安全・安心な県産食材の供給と地産地消を推進	① 減農薬・減化学肥料栽培やみどり認定等の取組拡大により、環境に配慮して生産された県産農林水産物の供給力を強化
		② 農林漁業応援団づくりや魅力ある直売所づくり等により、地産地消の取組を強化
		③ 学校給食における県産食材の利用拡大や農林漁業体験等を通じ、幅広い世代に食育を推進
		④ 食の安全・安心の確保に向け、農薬・肥料の適正使用や食品表示の適正化を推進
	(5) 県民の健康づくりに向け、森林等の利用を促進	①「四王寺県民の森」の整備を通じ、森林浴による健康づくりや森林の大切さを学ぶ機会を充実
		②「全国育樹祭」を通じ、緑を育む気運を向上
		③ 木や花、緑に親しむ機会を通じ、木育・花育を推進
	(6) 動物の保健衛生対策と家畜防疫体制を強化	① 動物保健衛生所における家畜・野生動物・愛玩動物等の調査・研究を通じ、人と動物の感染予防対策を推進
		② 動物の保健衛生を担う獣医師を確保・育成
		③ 防疫演習やサーベイランスの実施により、家畜伝染病の防疫体制を強化